

## チェコ高等教育における1950年代改革の意義

－社会主義技術大学の現代的役割に着目して－

石倉 瑞恵

### The Importance of the 1950s Reform in the Czech Higher Education: From the Viewpoint of the Modern Role of the Socialist Technical Colleges

Mizue ISHIKURA

#### はじめに

1948年に始まるチェコ社会主義は、1989年市民革命により崩壊した。あれから20年、社会主義を知らない世代が大学に進学する時代である。資本主義化、国際化を志向する現在では、社会主義の遺産を探ろうとする者はほとんどいない。

確かに、社会主義には、美しき「中世の街」という肩書に貢献する要素はないであろう。実に、社会主義は、旧チェコスロバキア<sup>1)</sup> 経済の停滞をもたらし、イデオロギー統制は人々に多くの苦しみを与えた。大学では、学問の自由が剥奪され、イデオロギー教育が浸透し、イデオロギー統制の手段として密告や裏切りが横行した。知識人が弾圧され、強制労働を強いられる一方で、共産党員が大学教員職を独占した。大学の教育、研究機能は次第に空洞化した。高等教育は、人の生涯や職業に意味を与えなくなった。

空白の40年間なのであろうか。

視点を変えて、チェコ史の中で社会主義を把握してみようではないか。チェコは大国に隣接した小国である。長くハプスブルク帝国の支配下にあり、チェコ人は自らの祖国において、被支配者、弱者としての処遇を強いられてきた。チェコ語もチェコ文化も支配者に略奪された。1918年ハプスブルク帝国崩壊に伴い初の独立国家となるも、国内におけるドイツ勢力は依然として強力であった。チェコの大学は、ドイツ語を教授用語とするドイツ大学とチェコ語を教授用語とするチェコ大学に分離し、チェコ大学はドイツ大学の陰で細々とした活動を行わざるを得なかった。程なくナチス・ドイツが台頭し、国家存続は危機に瀕した。チェコスロバキア独立を願うチェコ人はコミュニストとなり水面下で活動する。コミュニストはナチスに捕らえられ、強制収容所送りにされた。

チェコスロバキアを解放に導いたソ連は、まさに救世主であった。共産主義思想を掲げるソ連は全てのチェコ人＝被支配者＝労働者の味方であった。大国ソ連の庇護の下でチェコが手にしたのは、チェコ人とチェコ語による真の「チェコ」である。大学という大いなる文化の全てがチェコ人の手中に入り、チェコ語による講義、教科書、書物が紛れもなく学術文化の第一線で使用できるようになったのは、チェコ史上初めてのことである。被支配者層であった労働者や農民出身者が、高等教育を享受できるような生活保障の制度が確立し、彼らが大学の門戸を叩くようになったのもこの時である。実は、社会主義高等教育改革は、大学をチェコ人のものとした最初の民主化、大衆化改革であると言える。

本稿は、14世紀に始まるチェコ高等教育の歴史に社会主義を位置付け、現在のチェコ高等教

育発展を形作ることになった社会主義期の遺産を掘り起こそうとする。焦点化する1950年代は、高等教育大衆化のインフラを整備する初期段階にあたり、労働者を対象とした大学や学部が続々と設立された。とりわけ、この時期に登場した技術大学 (Vysoká škola technická) は、社会主義が生み出した「正の遺産」であるという仮説を実証しようとする。

そこで、技術大学の成立、発展過程、教育の特色を分析し、社会主義期に技術大学が果たした役割を明らかにする。さらに、技術大学の現代における意義を探るために、社会主義技術大学の市民革命後の変化を追求する。

分析に当たり使用した主たる資料は、社会主義期に発刊されていた学術誌『高等教育』(Vysoká škola)、各大学が創立記念の際に発行していた大学史、統計資料等、すなわち社会主義期に出版された第一次資料文献である。

## 1 社会主義期の大学分類と現在の大学分類

社会主義期、チェコ大学は技術大学<sup>2)</sup>、総合大学 (Univerzita)、教員養成機関、芸術大学、神学部の5つに分類されていた<sup>3)</sup>。当時の統計資料<sup>4)</sup>には、この順序で大学群が記されており、カレル大学等の歴史ある大学が類される総合大学より技術大学に重点が置かれていたことを読み取ることができる。この5つの分類の中で、社会主義期に設立された大学を含むのは、技術大学と教員養成機関である。もちろん、技術大学には、社会主義期に設立された大学のみならず、チェコ技術大学 (1707年設立) のように古い大学も含まれる。

市民革命以降は、技術大学、教員養成機関を含む全ての大学は「公立総合大学」に昇格した。現在ではこの分類は用いられていない。そこで、現在のチェコ大学を分類した先行研究に基づいて、社会主義期に設立された技術大学と教員養成機関の現チェコ大学に占める割合と位置付けを見てみることにする。表1は、2001年チェコ高等教育白書における分類と2002年カーネギー財団による調査が明らかにした分類の2つをまとめたものである。表中には、現在の大学名と所在地、設立年を示した。又、社会主義期の技術大学と教員養成機関を起源とする大学は、ゴシック下線で示した。公立大学全体の中で、社会主義期設立の大学が多いことがわかる。

チェコ高等教育白書では、チェコ大学は3つに分類されている。それは、「Ⅰ. 学士、修士、博士、すべての課程において研究志向の大学 (7大学)、Ⅱ. 学士、修士、博士課程のうち研究志向の課程を含む。それ以外の課程においては、応用研究や生産活動と結びついた実学的専門高等教育を提供している主として実学志向の大学 (芸術大学を含み17大学)、Ⅲ. 実践的な活動に関連した学士課程中心の非総合大学型高等教育機関」の3分類である<sup>5)</sup>。社会主義期設立の大学は、Ⅰには1大学、Ⅱに9大学が含まれる。

一方で、カーネギー分類は、博士課程修了者の多少に基づいた分類であり、チェコ大学に次のような分類をあてはめている。「①高度な研究大学 (3大学)、②研究志向の大学 (4大学) ③修士課程<sup>6)</sup> を中心とする大学 (5大学) ④職業専門性の高い大学 (技術系8大学) ⑤芸術大学 (4大学) ⑥非総合大学型高等教育機関」である<sup>7)</sup>。博士課程修了者は①に最も多く、⑥では博士課程修了者はゼロとなる。表中では、①～⑤を右端列に示した。この分類においては、社会主義期設立の大学は②に4大学、③に3大学、④に3大学が含まれる。

チェコ高等教育白書、及びカーネギー分類においてⅠと①に該当する3つの大学、すなわち高度に研究志向であり、博士課程修了者数が最も多い大学は、所在地や設立年を見ても明らかに、主要都市にあり、歴史と知名度のある総合大学である。

社会主義期に設立された大学は、チェコ高等教育白書の中では主としてⅡに、カーネギー分

類においては、②と③、④に分類される。社会主義期設立の大学は、現在では様々な分野での応用、実学的教育と研究を提供している大学に類されている。言い換えると、旧技術大学及び旧教員養成機関は、あらゆる分野において現在のチェコ高等教育大衆化に貢献する中心的役割を担っているということである。さらに、旧技術大学（表中大学名※1）は、カーネギー分類の②と④に分類されており、研究志向の大学、あるいは社会主義期の技術大学としての色彩を色濃く残す技術系専門中心の大学となっている。

表1 現在のチェコ大学分類における社会主義大学の位置付け

チェコ高等教育白書による分類	大学名（所在地）	設立年	カーネギー分類（注4）
I 学士、修士、博士、すべての課程において研究志向の大学（全て公立大学）	カレル大学（ブラハ）	1348	①
	パラツキー大学（オロモウツ）	1573	①
	マサリク大学（ブルノ）	1919	①
	チェコ技術大学（ブラハ）	1707	④
	探鉱大学（オストラバ）	1849	④
	技術大学（ブルノ）	1898	④
	<b>化学技術大学（ブラハ）※1注3</b>	<b>1952</b>	<b>④</b>
II 学士、修士、博士課程のうち研究志向の課程を含む。主として実学志向の大学（全て公立大学）注1	獣医農業大学（ブルノ）	1918	④
	メンデル農林大学（ブルノ）	1919	④
	西ボヘミア大学（ブルゼニユ）※1	1950	②
	パルドビツェ大学（パルドビツェ）※1	1950	②
	チェコ農業大学（ブラハ）※1	1952	④
	技術大学（リベツ）※1	1953	②
	経済大学（ブラハ）	1953	④
	南ボヘミア大学（チェスケー・ブデヨビツェ）※2	1959	②
	オストラバ大学（オストラバ）※2	1959	③
	フラデツ・クラールヴェー大学	1959	③
	（フラデツ・クラールヴェー）※2		
	ヤナ・エバンゲリシチ・パーキン大学	1959	③
	（ウースチ・ナド・ラベン）※2		
	シレジア大学（オパバ）	1990	③
トマーシュ・パチ大学（ズリーン）	2000	③	
芸術大学4大学（ブラハとブルノ）	1779, 1811 1885, 1947	⑤	
III 実践的活動に関連した学士課程中心の非総合大学型高等教育機関注2	私立大学（45大学）	1999以降	⑥

出典：Ripková, Hana, *Vysoká školství v USA*, Nakladatelství Karolinum, (2006), Praha, ss.72-75より作成。

注1：白書は2001年版。現在では、私立大学2大学が博士課程を設置して総合大学型高等教育機関となったので、新たな分類を作成するならば、ここに2つの私立大学が加えられる。

注2：2004年に、公立大学2大学が非総合大学型高等教育機関として設置されたので、新たな分類を作成するならば、ここに2つの公立大学が加えられる。

注3：※1は社会主義期の技術大学。※2は社会主義期の教員養成機関。

注4：カーネギー分類：①高度な研究大学、②研究志向の大学、③修士課程を中心とする大学、④職業専門性の高い大学(技術系)、⑤芸術大学、⑥非総合大学型高等教育機関。

## 2 社会主義技術大学形成への序章

### (1) 戦後の技術大学必要論

1945年、チェコスロバキア共産党が第一党となり、国家社会党、カトリック党、民主党との連立による人民戦線党を結成した。

新政権は、大学を文字通り「建て直す」とともに、構造改革に着手した。総合大学に教育学部を設け、医学部、法学部を増設した。技術系分野の拡充にも関心を抱いていたが、本格的な技術大学設立の着想にまでは至らなかった。哲学部の一学科や自然科学系学部として設置する計画は浮上していた<sup>8)</sup>。しかし、あくまでもカレル大学等既存の総合大学の建て直しとしての計画であり、チェコ大学の伝統、すなわちリベラル・アーツとしての高等教育を越える発想ではなかった。

終戦直後のチェコスロバキアは、産業構造が不均衡であった。軽工業、繊維業、窯業の生産性は高いが、重工業、機械・電気工業の生産性は低かった<sup>9)</sup>。さらに、主要産業拠点である地方産業都市には技術大学が全く存在しなかった。地方で産業に携わる人材を育成していたのは技術専門学校、中等技術学校等の中等教育部門であった。

1948年に共産党全国会議議長ゴットワルドが大統領に就任し、チェコスロバキアは40年にわたる共産党一党支配の時代を迎える。共産党政権は、1949年より第一次5ヶ年計画を実施する。高等教育分野においては、生産活動の活性化と全労働者の生活水準向上のため、労働者に大学の門戸を開くこと、高等教育と産業、知識人と労働者の連携を築くことが課題とされた<sup>10)</sup>。

1950年の共産党中央委員会においては、新産業の振興、産業化への加速等多くの課題が提起された。重工業、特に機械産業の発展を支えるためには、技術系高等教育が必要であるとされ、技術大学設立に向けて大きな期待が寄せられた。また、高等教育拡大のためには十分な数の大学が必要であるにも関わらず大学が不足しており、それが産業化を阻んでいると指摘された<sup>11)</sup>。

このような議論を経て、1950年代高等教育改革は、技術大学の設立、高度な専門技術をもつ労働者の育成へと焦点化された。

### (2) 技術大学拡大への条件

新しい大学を設置し、普及を促すためには、克服すべき問題が一つあった。それは、それまで高等教育を不要としていた人々の関心を集めること、とりわけ共産党政権がターゲットとする労働者、農民出身層の関心を集め、高等教育就学率を高めることであった。

その打開策として、1948年から労働者、農民出身層を対象に大学入学のための準備教育制度を施行した。「労働者のための高等教育への準備教育」(Státní kursy pro přípravu pracujících na vysoké školy)は、高等教育機関がある各都市において1年から2年間の課程で実施された。その間の授業料、寮費は無料であった。対象となったのは、18歳から28歳までの高等教育を志望する労働者階層出身者、小作農家庭出身者であった<sup>12)</sup>。1954年まで実施されたこの制度は、新しい学生層の開拓に大きく貢献したと言われている。

1950年には高等教育法(Zákon o vysokých školách)が新たに施行され、高等教育改革の法的基礎が確立した。高等教育法の施行に伴い、各地に国家委員会が発足した。国家委員会は、高等教育設立に関わる実質的な任務を遂行する組織であった<sup>13)</sup>。

高等教育受益者層の拡大、大学設置のための実働組織整備、この2つの条件を土台として、その後の大学改革は急速に進行することとなった。

### 3 技術大学成立の過程

#### (1) 技術大学設立の方法

1950年高等教育法制定以降、各地で一斉に技術大学が設立される。1949年の段階では、20世紀以前に設立された技術大学が6大学存在していた。このうち2大学は廃止され、1950年から1953年にかけて集中的に新大学が設立された<sup>14)</sup>。1960年までには、技術大学数は9大学になった<sup>15)</sup>。新たに設立された技術大学は5大学ということである。スロバキアを含むチェコスロバキア国家としては、8技術大学の設立となる大規模な改革であった。

社会主義期の技術大学は、多くの場合、既存の技術大学から分離独立する形で設立された。同じ社会主義圏のポーランドにおいても、1950年代は技術大学拡大の時期に相当するが、技術大学設立の方法はチェコとは異なっていた。ポーランドの場合は、総合大学から森林学部、農学部、獣医学部等の実学系、応用系学部が独立し、それらが中等教育機関であったポリテクニクと合併することにより技術大学を形成した<sup>16)</sup>。チェコにおいて既存技術大学からの分離独立が多かったのは、一つにはチェコに古くからある技術大学の質の高さによるものと考えられる。

例えば、1950年に設立されたプルゼニュ機械電子工学大学は、その始まりは、チェコ技術大学の「機械電子工学部」プルゼニュ校であった。又、1952年設立のプラハ農業大学は、チェコ技術大学の「農林学部」が独立し、大学となった例である。このように、技術大学としては最大規模のチェコ技術大学から分離独立した大学は多い<sup>17)</sup> (図1参照)。そのため、チェコ技術大学そのものは、一時期学生数が減少し、1946/47年度の1万5,451人は、1960/61年度の1万799人になった。

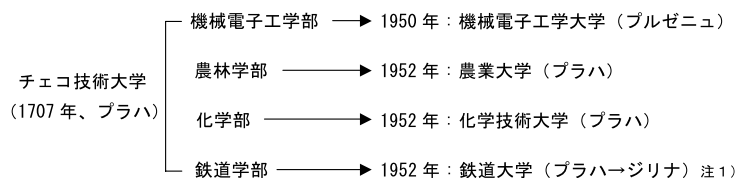


図1 チェコ技術大学から分離独立した大学

注1：ジリナはスロバキアの都市であり、現在はスロバキアの大学である。

新たな大学が分離独立する一方で、大学間の吸収合併により、新技術大学が設立される事例もあった。例えば、ブルノ獣医大学はブルノ農林大学に吸収合併され、ブルノ農林大学の獣医学部となった。

分離独立、吸収合併を通して、専門性の統合された技術大学が形作られることになった。

#### (2) 地域への高等教育機会拡大

従来チェコの大学は、首都プラハ、第2の都市ブルノに集中していたが、技術大学の設立により、大学都市は国境に近い都市にまで拡大した。北東のリベレツ、西のプルゼニュ、東のパルドビツェ等である (図2参照)。新技術大学が設立されたこれらの都市は、主として地元産業のある都市<sup>18)</sup>であった。

例えば、1950年に化学技術大学が設立されたパルドビツェは化学工業の町としての歴史がある。鉱物油精製により化学産業が興ったのは1889年にさかのぼり、以来、チェコにおける重化学工業の要所となっている<sup>19)</sup>。同年に機械電子工学大学が設立されたプルゼニュは、古くから

機械工業の町として知られ、1869年には、自動車メーカーのシュコダ・オートもこの地に創設された。

### (3) 技術大学学生数の増加

1950年代の改革により、技術大学の学生数、学部数は飛躍的に増加した。図3では、1949/50年度から1960/61年度までの学生数の変化を、技術大学と総合大学との比較で示した。

1949/50年度では、技術大学1万3,820人に対し総合大学3万5,880人と総合大学学生数が多い。ところが、1953/54年度に総合大学と技術大学の学生数は逆転し、技術大学が総合大学を5千人程度上回った。それ以降、技術大学学生数は、着実に増加している。技術大学が高等教育拡大に大きく貢献していること、技術大学が社会主義を

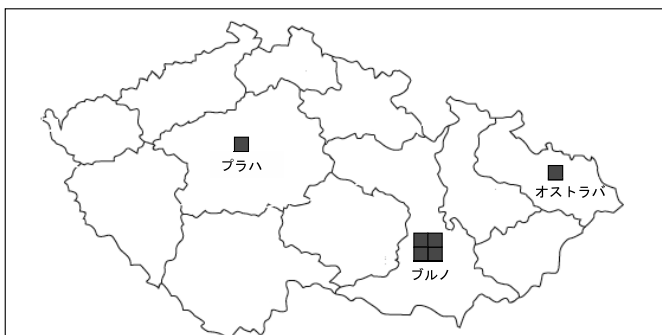


図2-1 技術大学の分布 (1949/50年度)

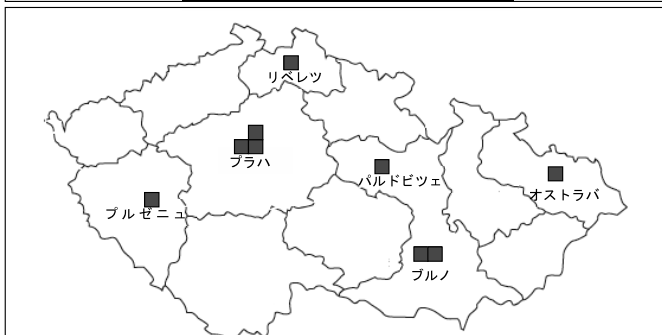


図2-2 技術大学の分布 (1960/61年度)

図2 技術大学の分布比較(1949/50年度と1960/61年度)

注：■は技術大学1大学を示している。

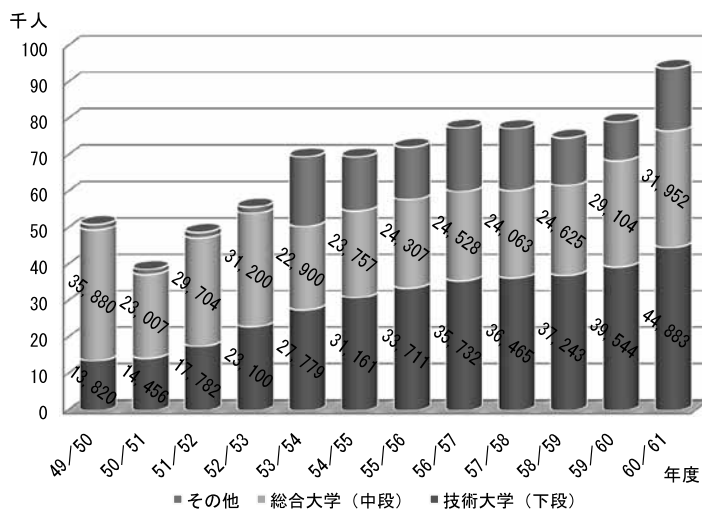


図3 技術大学学生数の増加

出典：Státní úřad statistický (red.), *Statistická ročenka republiky Československé*, Praha, (1959), s.395. 及び *Ibid.*, (1961), s.409.より作成。

注：「その他」には教員養成機関、芸術大学、神学部が含まれる。

代表する大学群となったことがわかる。

学部数は、1949/50年度では、総合大学が27学部、技術大学は21学部であったが、1953/54年度には、総合大学33学部、技術大学38学部となった。翌年度、総合大学の学部数は変わらないが、技術大学は47学部にまで増加した。

学部数、学生数の増加は、新大学設立が唯一の原因ではなく、全技術大学が学部を増設し、規模を拡大していることも要因となっている。技術系高等教育の重点化は、新技術大学の発足と学部の増設という二つの柱で進行していた。その結果、古くからの技術大学は一人規模の大規模技術大学へと発展し、新設技術大学は、2,000人から3,000人規模の技術大学として定着する。

#### 4 技術大学による新しい高等教育の可能性

技術大学発足及び専門性確立のプロセスを、一つの大学事例に焦点化し、具体的に解明しようと試みる。チェコ技術大学から分離独立したプルゼニュ機械電子工学大学の設立プロセス、設立後の改革、そのカリキュラムに着目し、社会主義期設立の技術大学の特色を明らかにする。

##### (1) 機械電子工学大学の成立

プルゼニュに機械電子工学の高等教育機関を設置しようとする声は、戦後間もなく、プルゼニュの知識人、産業界からあがった。プルゼニュの民間人による大学誘致活動の一方で、政府も、プルゼニュへの技術高等教育機関の設置を二度にわたって試みていた。1946年には、プラハのチェコ技術大学の分校を置こうとする案が出た。1947年には、プルゼニュに総合大学を新設し、機械工学部を設けようとする案もあった<sup>20)</sup>。しかしながら、いずれの案も実現しなかった。

政権移行後、1949年には、プルゼニュの国家委員会が高等教育機関を組織するための諮問委員会を結成し、技術大学設立へと動き始めた。早くも同年には、チェコ技術大学の機械電子工学部分校がプルゼニュに発足した<sup>21)</sup>。

プラハのチェコ技術大学で行われた機械電子工学部プルゼニュ分校の第1回入学試験に合格した第1期生は94名であった。合格者を出身別で見ると、プルゼニュ、カルロビ・バリ、チェスケー・ブデヨビツェという地方出身者により高い割合が占められていた。階層別で見ると、労働者階層出身者が51.0%、被雇用者層が34.8%、小農5.0%、金融業1.4%、その他の業種3.8%、自由業3.8%であった<sup>22)</sup>。1948年からプルゼニュで開始された「労働者のための高等教育への準備教育」が成果をあげ、合格者の多くは、地方在住で、生産労働に直接携わる階層の出身者となった。

この分校のその後の展開に関して、シュコダ・オート社の労働者を含む委員会において議論が重ねられ<sup>23)</sup>、1950年には、プルゼニュ機械電子工学大学として独立した。当初は、1学部のみからなる大学であった。

1950年代中期になると、チェコスロバキア全土において第1次5カ年計画の成果が現れ始め、国内生産力が平準化したと言われている。そして、新産業の開発を含むさらなる産業の発展を導くために、技術大学改革の目標は、新しい学科開設へと移った<sup>24)</sup>。1955年から1957年にかけて、プルゼニュ機械電子工学大学では輸送工学、タービン建設学、熟技術学、物質・機械技術学等の新学科が設けられた。1960年には、機械工学部と電子工学部との2学部構成になり、新学科は、それぞれの学部の中で専門性を統合することになった。

プルゼニュ機械電子工学大学の学生数は、分校として発足した1949/50年度には100名足らずであったが、1954/55年度には609名、1959/60年度には914名にまで拡大した。さらに80年

代に入ると2,000人超の大学となる。

## (2) 実学性重視の教育

技術大学は、産業を支える労働者への高等教育を目指しており、産業基盤のある都市において設立された。教育内容では、それまでの総合大学とは異なった専門的、実学指向教育が開発された。

特徴的なのは、地元産業界との連携を深め、企業での生産実習を教育プログラムの中に組み込んだ点である。生産実習は、学生が通常の実業に入り、正規従業員とともに労働勤務を行う実習である。技術大学における教育プログラムは、理論科目と専門科目に分類されるが、生産実習は専門科目の中で大きな比重を占めていた。

生産実習の方法や内容は各大学で異なっていた。社会主義期の高等教育は、例えばマルクス・レーニン主義教育のように、統一基準の下に画一的に実施されたのであるが、生産実習が導入されるようになった1950年代後半は、「まだ」各大学の地域性や特性に応じた改革方針が許容されたからである<sup>25)</sup>。

プルゼニウ機械電子工学大学では、1959/60年度より、生産実習が導入された。国内最大の機械メーカー「V.I.レーニン」と提携し、その工場を生産実習の場所とした。この企業が生産実習の場として選ばれたのは、技術革新への大きな可能性をもつ製造会社であるのみならず、機械電子工学大学の教授、准教授の多数はそこでの長年の労働経験があったからである<sup>26)</sup>。すなわち、機械電子工学大学の教員は、母体となるチェコ技術大学からの教員に加え、実務家により占められていた。

社会主義期の高等教育改革は、ソ連の高等教育をモデルとして展開したが、カリキュラムの細部においてもソ連モデルが移植された<sup>27)</sup>。プルゼニウ機械電子工学大学は、生産実習を行う時期、大学の授業と生産実習のバランス等について、ソ連のソルコバ土木工学大学をモデルとした<sup>28)</sup>。

プルゼニウ機械電子工学大学の生産実習は次のように展開されていた。2年次までは、隔週で学校と工場へ通う。工場での実習は、週当たり46時間、学校での授業、演習は、週当たり34時間であった。生産実習の比重の大きさがわかるであろう。3年から5年次にかけては、大学へのみ通う。その間に、基本的理論科目、特に数学と物理を学び、理論を生産実践の場に応用させることを学ぶ。最終学期、すなわち6年目の半期間は工場へ入り、各自の専門分野に関連した技術、生産活動を行う。技術、生産活動を行いながら、学位論文のための演習として自らの課題を検討したり、そのための作業を行ったりした<sup>29)</sup>。

生産現場と密接に関連したカリキュラムにより、社会主義技術大学における教育内容は、実学性の高いものとなった。技術革新を担う労働者、農民出身階層への高等教育機会の拡大は、このような大衆化された技術高等教育の普及、発展により定着したのである。

## 5 1989年市民革命後の旧技術大学の変容と新時代における役割

1950年代には技術大学の成立等、実質的な社会主義改革が進行したのであるが、1960年代、そしてとりわけ1968年プラハの春以降は、神学部の大学からの追放、マルクス・レーニン主義教育の徹底等、イデオロギー統制の側面が肥大化した。技術大学は、ソ連、東欧との学術交流を深め、ある分野においては研究協力体制が発展するのであるが、このような学術交流も、実は高等教育を通じた社会主義圏の結束に貢献するという意味が大きかった<sup>30)</sup>。



1989年市民革命は社会主義的要素を一掃した。共産党勢力を追放し、イデオロギー教育を担っていたマルクス・レーニン主義学科を廃止し、大学組織から追放されていた神学部を呼び戻した。大学には、自治と学問の自由が復活した。1990年には、新高等教育法が制定され、学問を謳歌する大学のあり方が示された。

それでは、社会主義技術大学はどうなったのか。すでに表1において明らかにしたように、社会主義を一掃する改革が進む一方で、技術大学等の社会主義大学は「全て」残された。市民革命直後から現在に至るまで新たに設立された公立大学はわずか4大学であることを考えると、技術大学は、新時代の高等教育拡大のためには必要な条件であった。しかしながら、技術大学は資本主義社会に適応するような変化を遂げた。

まず、技術大学は、従来の学部の他に、人文系、社会系の学部を増設して、総合大学へと昇格した。市民革命直後には、経済・経営学部が数多く設けられた。新総合大学は、地域的特色を活かした教育プログラムや旧技術大学時代の専門分野を中心として、多様な高等教育機会を地域の学生に提供し、地域の資本主義化に対応する学術機関へと変容を遂げた。

先の事例である「プルゼニュ機械電子工学大学」は、社会主義期の機械工学部、電子工学部を核として、次のような発展を遂げた。1990年に応用科学部と経済学部を設置し、1991年にはカレル大学教育学部のプルゼニュ校を合併して、「西ボヘミア大学」となった。1993年には法学部(1997年には法学部が人文科学部に)、2006年には哲学部、2008年には健康科学部を設けた。今や8学部構成の西ボヘミア大学は、機械工学、電子工学、情報科学、応用数学、物理学、経済学、教育学、哲学、言語学、社会学、文化人類学、考古学、法学、健康科学と、多岐にわたる専門分野を展開し、この地域の教育力、地域活性化のセンターとなっている。

さらに、21世紀欧州高等教育圏<sup>31)</sup>を目指したチェコ高等教育改革においては、旧技術大学、すなわち新「総合大学」は、カレル大学のような都市部大規模大学よりも積極的にエラスムス・プログラムや単位互換制度を導入したり、国際的な研究協力を発展させたりと、国際化に向けた様々な制度を導入する。

欧州高等教育圏の大学としての変革は、旧技術大学時代からの学部において着手される傾向にある。例えば、西ボヘミア大学では、多くの大学と2カ国間協定を結び、エラスムス・プログラム、単位互換制度を導入するのみならず、留学生を対象とするパラレル・スタディー・プログラムという独自のプログラムを設けた<sup>32)</sup>。これは、正規の学士、修士、博士課程において完全に英語での履修が可能となるプログラムである。導入したのは、旧技術大学時代からの学部であった機械工学部、電子工学部、さらに新設の応用科学部である。この3学部では、旧技術大学設立時から関係性の強かったシュコダ・オート社による教育協力が現在も維持されている。例えば、優れた教育実践、論文に対してシュコダ・エミール賞を授与する等、学生の学業への意識を高める試みがなされている。

すなわち、新総合大学は、欧州高等教育圏の大学として発展する要素をすでに内包していたと考えられる。旧技術大学において追及した専門性の高い学部、チェコ産業と関連したプログラムは、チェコ高等教育におけるオリジナリティとして、多様な需要をもつ各国留学生層をひきつける魅力となっているからである。

旧技術大学という社会主義の遺産は、欧州高等教育圏の大学としての変革期においても大きな役割を果たしているのである。

## おわりに

最後に、チェコ高等教育発展の歴史における社会主義技術大学の意義についてまとめる。

市民革命後のチェコ高等教育改革において、1950年代に成立した技術大学は、資本主義化、国際化を志向するチェコ高等教育の基盤となっている。それは、以下に示す技術大学の3つの特性によるものである。

第1に、地域的多様性である。技術大学は、生産性の向上を目的として地方産業都市に設立されたため、高等教育機会の地域への拡大に貢献した。地域における大学拠点の開発は、資本主義社会において高等教育が大衆化するために必要な条件であった。

第2に、専門的多様性である。技術大学は、教育内容においては産業と連携した高等教育を開拓した。リベラル・アーツ指向のエリート養成型大学の縛りから脱却し、高等教育大衆化と多様化の基礎を築いた。それは、資本主義社会が求める高等教育大衆化、多様化に大きく貢献している。

第3に、このような地域的多様性、専門的多様性は、国際化時代のチェコ高等教育多様化に必要な条件であった。プルゼニュ機械電子工学大学の事例で明らかにしたように、旧技術大学においては、オリジナリティの強いカリキュラムが開発された。現在の総合大学というユニットの中においても、旧技術大学時代の学部は、地域産業との関係性、オリジナリティの強い専門性、教育的特色を活かしてさらなる発展を遂げている。そのような学部が国際化を意識した改革を積極的に取り入れることで、多様な需要をもつ留学生層をターゲットとした国際性の高い大学へと変容することができた。すなわち、技術大学は「多様な留学生の需要に応える」という欧州高等教育圏構想の前提である「多様性」の基礎をすでに築いていたのである。

以上をまとめると、社会主義技術大学を生み出した1950年代とは、資本主義化、大衆化、国際化時代のチェコ高等教育発展を支える原点が形作られた時代であると言えるのである。

- \* 本研究は、名古屋女子大学特別研究助成費（平成21－22年度）を得て行なった調査成果の一つである。

<sup>1)</sup> 本稿は、現在の「チェコ共和国」に焦点をあてる。したがって、社会主義期は「チェコスロバキア」であったが、「チェコ」にのみ焦点化している。しかし、国名として「チェコスロバキア」を使用する箇所もある。

<sup>2)</sup> 技術大学には、農業大学 (Vysoká škola zemědělská) も含まれる。

<sup>3)</sup> 「神学部」は、総合大学の一学部であったが、神学と共産主義は相容れないという理由から、別個の組織とされた。事実上、「追放」である。社会主義後期には、神学部は、高等教育機関としてみなされなくなった。なお、「教員養成機関」は、1960年代には独立教育学部という名称になり、カレル大学の一学部であるが、別組織として扱われていた。

<sup>4)</sup> 毎年発行されていた *Statistická ročenka republiky Československé* をさす。

<sup>5)</sup> Ripková, Hana, *Vysoké školství v USA*, Nakladatelství Karolinum, (2006), Praha, ss.74-75.

<sup>6)</sup> 第一学位は、1998年に学士課程の設置が義務付けられた現在でこそ、学士 (bakalář) であるが、それまでは修士 (magistr) であった。ゆえに、修士課程は、日本のような研究コースではない。

<sup>7)</sup> Ripková, Hana, *op cit.*, ss.72-73.

<sup>8)</sup> Seidler, Jindřich a Šedvic Vlastimil, "Vysoká škola strojní a elektrotechnická od svého založení", *Na prahu nové etapy*, Vysoká škola strojní a elektrotechnická v Plzni, Plzeň, (1989), s.15.

<sup>9)</sup> *Ibid.*, s.19.

- 10) “Výnosy ministerské Pětiletý plán a školy”, *Věstník ministerstva školství, věd a umění Roč. 4*, Praha, (1948), seš.2.
- 11) Pavlík, Ondrej, “Zasedání ÚV KSČ a úkoly vysokých škol”, Ministerstvo školství (red.), *Vysoká škola Roč.1 (8)*, Praha, (1950), s.227.
- 12) “Výnosy ministerské Státní kursy pro přípravu pracujících na vysoké školy”, *Věstník ministerstva školství, věd a umění Roč. 7*, Praha, (1951), seš.16.
- 13) 「労働者のための高等教育への準備教育」、寮の整備など、実際的な任務を行った。
- 14) 1952年には、チェコ及びスロバキアにおいて4つの農業大学が設立された。同年には大規模農業生産に従事する専門家を育成するために、ソ連から農業専門家も派遣された。《Červenka, Josef, “Podíl vysokých škol na zvyšování úrovně zemědělské výroby”, Ministerstvo školství (red.), *Vysoká škola Roč.9 (1)*, Praha, (1960), s.10.》
- 15) スロバキア側は2大学であったが、1960年までには5大学になった。
- 16) ポーランドのポリテクニク (Politechnika) は、専門性や教育の質が低かった。「学部ばかりが多く、学部門間に専門的調和が取れていなかったり、学科、専攻の統一性も低かったりした。》《Batycz, Henrynek, *The development of university education in Poland*, Polonia publishing house, Warsaw, (1957), p.55.》
- 17) スロバキアでは、ブラチスラバ技術大学とコシュツェ農林大学から新技術大学が分離独立した。チェコ技術大学からスロバキアの技術大学が誕生した例もある。
- 18) スロバキアでは、大学はブラチスラバ (南スロバキアの最西端) とコシュツェ (東スロバキアの南端) にしかなかった。新たに運輸大学や農業大学が設立されたジリナ、ニトラ、ズボレンは農業生産地や交通の要所であった。《Pavlík, Ondrej, “O naléhavých úkolech ve školství po zasedání UK KSČ”, *Věstník ministerstva školství, věd a umění Roč. 7*, Praha, (1951), seš.10–11.》
- 19) Klikorka, Jiří, *25 let Vysoké školy chemickotechnologické v Pardubicích*, Vysoká škola chemickotechnologická, Pardubice, (1975), s.18.
- 20) Hošek, Josef, “Dvacet let Vysoké školy strojní a elektrotechnické v Plzni”, Kupka, Ladislav (red.), *1949–1969 Pamětní publikace k dvacátému výročí Vysoké školy strojní a elektrotechnické v Plzni*, Vysoká škola strojní a elektrotechnická v Plzni, Plzeň, (1969), ss.22–25.
- 21) *Ibid.*, s.16.
- 22) *Ibid.*, s.19.
- 23) シュコダ・オート社と機関電子工学大学との結びつきは、その後も保たれていた。例えば、第1学年の手工訓練の演習には、シュコダ・オートの工場が用いられた。また、1961/62年度卒業生136人中、64人がシュコダ・オートに就職した。《Jaren, Jaromír, “Strukturální vývoj studia na VSŠE”, Kupka, Ladislav (red.), *op.cit.*, s.51.》
- 24) Hošek, Josef, *op.cit.*, (1969), s.23.
- 25) Přemysl, Breník a Čech, Vladimír, “K otázce spojení vysokých škol s výrobou”, Ministerstvo školství (red.), *Vysoká škola Roč.7 (4)*, Praha, (1959), s.111.
- 26) *Ibid.*, s.113.
- 27) ソ連の大学の実情は1950年代初頭のソ連視察により明らかにされており、チェコスロバキア国内において数々の報告がなされていた。
- 28) Čech, Vladimír, “Některé problémy přestavby technických vysokých škol”, Ministerstvo školství (red.), *Vysoká škola Roč.7 (12)*, Praha, (1959), s.364.
- 29) Přemysl, Breník a Čech, Vladimír, *op.cit.*, (1959), ss.113–114.
- 30) 石倉瑞恵「チェコ高等教育の国際化 1949–2009 留学生受け入れの軌跡から」名古屋女子大学編『名古屋女子大学紀要第56号 人文・社会編』、(2010年)、169頁。
- 31) 国家的利益を超えて、各国学生の利益を考慮する「知の欧州」を構築することを目的とした構想である。透明性の高い学士課程、EU共通資格となる学士普及、単位互換制度の導入、教員と学生の流動性向上等が達成指標とされている。《*Joint declaration of the European Ministers of Education*, Bologna, (1999). (Bologna Declaration)》
- 32) Center for higher education studies, *Higher education in the Czech Republic, Guide for international students*, Prague, (2005), pp.168–183.

## Abstract

This paper aims to clarify the importance of the 1950s reform in the Czech history of higher education. The process of the formation of the Socialist technical colleges and their roles in modern Czech were considered.

The socialist technical colleges established in 1950s were considered to be the key to train the workers and to raise the productivity of Czechoslovakia.

Technical colleges were mainly established by separating from other traditional technical colleges, in the regional towns that had original industries and also needed higher technical education. By the end of the 1950s, the number of the students of the technical colleges had increased, and it had outnumbered that of the universities.

Technical colleges were closely related with the local industries, whose curriculum was practical oriented. The proportion of the “productive practices” was much higher. This contributed to the expansion of higher education among the workers, and the diversification of the Czech higher education.

After the velvet revolution, the technical colleges changed to regional “Universities” by setting up the varieties of departments. Their regional diversities and disciplinary diversities have contributed to the internationalization of Czech higher education. This is because their relationship with industries, and disciplinary and educational originality has met the varieties of demands of the European students.

It can be said that the 1950s that gave birth to the socialist technical colleges was when the foundation of Czech higher education was formed.